

鹿病防第30号  
平成17年12月19日

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察特殊報第3号について（送付）

県内のトマト等にタバコナジラミ バイオタイプQ *Bemisia tabaci* Q-biotypeの発生が認められ、特殊報第3号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（[www.jppn.ne.jp/kagoshima](http://www.jppn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載する予定です。

---

## 病害虫発生予察 特殊報第3号

平成17年12月19日

鹿児島県病害虫防除所

1. 病害虫名 タバコナジラミ バイオタイプQ *Bemisia tabaci* Q-biotype

2. 発生植物 トマト、ミニトマト、ピーマン、ナス、キュウリ（表1参照）

### 3. 発生確認の経過

平成17年2月、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 九州沖縄農業研究センターの上田氏により、大口市のトマトでタバコナジラミ バイオタイプQの発生が国内で初めて報告された。

平成17年9～11月、鹿児島県農業試験場病虫部において上田氏の方法に準じたPCR法により、県内のトマト等産地から採集したコナジラミを調査した結果、バイオタイプQの発生を確認した。

### 4. 形態及び生態等

#### （1）形態

シルバーリーフコナジラミとの形態上の差異は成虫、幼虫ともに確認されておらず、形態による識別は肉眼では困難である。

タバコナジラミは多くのバイオタイプが存在することが知られている。このうち、バイオタイプBは1994年に別種であるとし、シルバーリーフコナジラミとして命名された。

#### （2）生態

ア 1996年にスペインで初めて確認され、他にイタリア、中国等で発生しているが、詳細な生態は不明である。

イ 宮崎県病害虫防除所・肥料検査センターの試験では、シルバーリーフコナジラミとの交雑は認められていない（未発表）。

#### （3）寄主植物

県内ではトマト、ミニトマト、ピーマン、ナス、キュウリで確認している（表1参照）。この他に熊本県ではメロンで、宮崎県ではシシトウ、大葉で発生を確認している。

## 5. 薬剤感受性

トマトに登録のある殺虫剤12薬剤を試験した結果、サンマイトフロアブル、アルバリンノスタークル顆粒水溶剤及びベストガード水溶剤の3剤に高い殺虫効果を認めた（平成17年9月2日付け技術情報第7号参照）。

なお、平成17年9月2日付け技術情報第7号のシルバーリーフコナジラミは大口市個体群、高尾野町個体群、さつま町個体群すべてタバココナジラミバイオタイプQに訂正する。

## 6. トマト黄化葉巻病ウイルス（TYLCV）の媒介能力

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所において、TYLCVの媒介が確認されている。

## 7. 被害の特徴

ア シルバーリーフコナジラミ（バイオタイプB）と同様と考えられ、TYLCVの媒介、成虫の吸汁による生育阻害、成虫の分泌物に起因するすす病による葉・果実等の汚れが問題となる。

イ 熊本県病害虫防除所の試験では、カボチャ葉の白化症の発現能力はないか、低いと考えられている（未発表）。

## 8. 防除対策

（1）薬剤の効果に注意し、アトマイヤー水和剤やダントツ水溶剤等の効果が低い場合は、バイオタイプQの発生を疑い、前述のサンマイトフロアブル等有効な薬剤に切り替える。  
なお、薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一系剤の連用は避ける。

（2）トマト、ミニトマトは黄化葉巻病（TYLCV）の感染を避けるため、表2の防除体系を参考に防除する。

（3）施設栽培では防虫ネットを必ず使用するとともに、紫外線カットフィルムや光反射マルチ等利用可能な物理的防除手段を利用する。

（4）栽培ほ場周辺の雑草は除去するとともに、栽培終了後は必ず施設を密閉して蒸し込む。

## 9. 引用文献

九州病害虫研究会報(2005年), 上田重文

植物防疫第59巻第7号(2005年), 本多健一郎

表1. 県内で採集したタバココナジラミバイオタイプQ確認地点一覧

(鹿児島県農業試験場病虫部及び病害虫防調査除所調査)

採集作物	採集市町村	採集年月日	バイオタイプQ 確認地点数 / 調査地点数	備考
トマト	大口市*	平成17年6月22日	2/2	
	さつま町*	" 6月 9日	2/2	
ミニトマト	出水市*	" 6月 8日	1/1	
	高尾野町*	" 6月 8日	1/1	
	野田町*	" 6月 8日	1/1	
ピーマン	加世田市	" 10月11日	2/2	
	志布志町	" 10月 7日	2/2	
	松山町	" 10月 7日	2/2	
	串良町	" 9月13日	2/2	
	東串良町	" 9月13日	3/3	
ナス	鹿児島市	" 11月10日	1/1	
	大崎町	" 10月 7日	0/1	バイオタイプ B(シハ-リコナジラミ)と混発
メロン	松山町	" 10月 7日	0/1	バイオタイプ B(シハ-リコナジラミ)
キュウリ	有明町	" 10月 7日	1/1	
カボチャ	山川町	" 10月11日	0/1	バイオタイプ B(シハ-リコナジラミ)
サツマイモ	山川町	" 10月11日	0/1	バイオタイプ B(シハ-リコナジラミ)
キャベツ	山川町	" 10月11日	0/1	バイオタイプ B(シハ-リコナジラミ)

\* : 採集後ナスを用いて累代飼育を行い, 11月にPCR法で識別した。

表2. タバココナジラミ バイオタイプQに効果のある又は併殺効果の期待できる栽培時期別薬剤(施用例)

栽培時期	トマト	栽培時期	ミニトマト
<b>&lt;粒剤&gt;</b>		<b>&lt;粒剤&gt;</b>	
育苗期 (8月下旬~10月中旬)	ベストガード粒剤	育苗期 (7月下旬~8月下旬)	ベストガード粒剤
定植時(10月中旬)	アルバリン/スタークル粒剤	定植時(8月下旬~9月上旬)	アルバリン/スタークル粒剤
<b>&lt;散布剤&gt;</b>		<b>&lt;散布剤&gt;</b>	
育苗期~定植初期 (8月下旬~10月下旬)	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 モスピラン水溶剤	育苗期~定植初期 (8月下旬~9月下旬)	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 モスピラン水溶剤
定植後(マルハナ導入20日前) (11月上旬~中旬)	サンマイトフロアブル スピノエース顆粒水和剤* バリアード顆粒水和剤	定植後(マルハナ導入20日前) (10月上旬~中旬)	サンマイトフロアブル** プリファード水和剤
定植後(マルハナ導入後) (11月下旬~)	アフファーム乳剤* アクタラ顆粒水溶剤* モレストン水和剤* アブロード水和剤 カウンター乳剤 コロマイト乳剤 チェス水和剤 ノーモルト乳剤	定植後(マルハナ導入後) (10月下旬~)	アフファーム乳剤* コロマイト乳剤** チェス水和剤 ノーモルト乳剤

注1)\* 適用病害虫としての登録はないが, 併殺効果の期待できる農薬。

注2)\*\* 経過措置農薬の使用に当たっては, 氏名, 住所, 出荷先等を市町村又は農協等を通して県に届け出るとともに, 記帳しておくこと等が義務づけられている。なお, 本農薬が経過措置農薬としてミニトマトで使用できるのは平成18年3月末までの見込みである。